

夏のレジャーの安全点検

海へ！山へ！川へ！夏は、アウトドアでのレジャーを楽しむ人が多くなる季節です。その一方で、レジャー中に発生する水難や山岳遭難などの事故も、この時期に多くなっています。自然のなかでは、ちょっとした不注意が事故につながることも少なくありません。事故に遭わない楽しいレジャーにするために、安全対策をきちんとしておきましょう。

水の事故

「海」での事故 「水泳中」の事故が多い

平成16年夏期（6月～8月）に発生した水難事故の件数は787件、水難者数は935人で、そのうち死者・行方不明者数は436人となっています。

水難事故の発生場所が一番多いのは、やはり「海」で、全体の半数以上を占めています。また、行為別では「水泳中」の事故がトップ、次いで「魚とり・釣り」、「水遊び」での事故が多くなっています。

海や川など水辺のレジャーでは、遊泳禁止区域で遊んだり、波が高いときに海に出たりするなど、その人自身の不注意や無謀な行動が、水難事故につながります。楽しく遊ぶために、次のようなことをきちんと守りましょう。

！水難事故を防ぐために

□遊泳禁止区域では泳がない↓遊泳禁止区域になっている場所は、急に深くなったり、潮の流れが速い「離岸流」

があつたりするなど、危険な区域です。
□悪天候のときは泳がない・海に出ない↓高波にさらわれるなどの危険があります。

□泳ぐ前に準備運動を↓準備運動をきちんとしないと、足がつるなどおぼれやすくなります。

□お酒を飲んだら泳がない↓お酒を飲んで海に入ると、心臓まひを起こしたり、おぼれたりする事故につながりやすくなります。

□子どもだけで遊ばせない↓子どもを水難事故から守るのは、大人の責任です。子どもが水辺で遊ぶときには、必ず大人が監視して、危険がないよう注意してください。



山の事故

山岳遭難者の約8割は中高年者

春から秋にかけては登山シーズン。なかでも7月～8月の夏山シーズンは、毎年、山岳遭難が最も多くなる季節です。

平成16年夏期（7月～8月）の山岳遭難の発生件数は、353件。遭難者は426人で、そのうち死者・行方不明者は51人、負傷者は241人となっています。年齢別で見ると、遭難者の約8割は40歳以上の中高年者で、死者・行方不明者でも中高年者が9割以上を占めています。

遭難の原因では、最も多いのが「転落・滑落」で、次いで「転倒」、「疲労・病気」となっています。特に、登山経験の浅い人の登山やハイキング気分での安易な登山が、山岳遭難につながりやすくなっています。夏山でも甘く見ないで、体力・装備ともに、しっかり準備をしてから登りましょう。

！山岳遭難を防ぐために

□事前準備をしっかりと↓登山技術や



体力、経験に合った山を選び、無理のない登山日程を計画しましょう。また、健康管理にも十分注意しましょう。

□万全の装備で出かける↓夏山登山では日射病を予防するために帽子は必須です。また、山の天候は変わりやすく、ふもとでは晴れていても山頂では雨が降っていたり、寒かったりします。防寒具や雨具なども持参するなど、万全の装備で出かけましょう。

□単独登山の自粛↓単独登山は、事故に遭っても救助を求めることができないため、遭難時の死亡率も高くなっています。登山経験の豊かな人とパートナーを組んで登山しましょう。

□緊急時の連絡手段を確保する↓無線機や携帯電話など、緊急時の連絡手段となるものを持っていきましよう。携帯電話の予備バッテリーも準備してください。

□入山前に登山届の提出を↓登山届の提出は、安心登山の第一歩です。登山届は、万一遭難したときに、救助隊が遭難者を発見・救出するためのものです。登山届は、登山口に設置してある登山届入れから投函できます。